第三者評価結果報告書

総　括	
対象事業所名	わおわお大倉山保育園
経営主体(法人等)	社会福祉法人わおわお福祉会
対象サービス	保育所
事業所住所等	[本園]〒222-0037　横浜市港北区大倉山5-7-2 [分園]〒222-0037　横浜市港北区大倉山5-24-4
設立年月日	平成14年　4月（横浜保育室として開園、平成16年4月認可保育園）
評価実施期間	平成25年7月　～　26年1月
公表年月	平成26年6月
評価機関名	株式会社　R-CORPORATION
評価項目	横浜市版

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）

≪概要≫

●わおわお大倉山保育園の立地・概要

わおわお大倉山保育園は東急東横線の大倉山駅から徒歩7分程度のところにあります。大倉山は、洗練された街並みと緑ゆたかな環境の地で、昭和初期から宅地開発が進み、東横線沿線の上質な住宅街としての地位を築いてきた場所（「東西文化の融合」を掲げた大倉邦彦の横浜市大倉山記念館を中心として開けた先進地域）です。駅西側の坂道を登ると、緑深い大倉山公園があり、園の近くには、この街の象徴ともいえるギリシャ神殿風の大倉山記念館や春、紅白20種もの梅が美しさを誇る梅林があり、住民のリフレッシュゾーンとなっています。また、昭和５６年に横浜市が寄贈を受け、大倉山記念館として保存しているものです。近くには太尾小学校、大綱中学校があります。わおわお大倉山保育園は、平成14年に横浜保育室として開園し、平成16年4月認可保育園に改組し、現在、定員72名、分園に０～２歳児（定員３１名）、本園に3～5歳児（定員４１名）に分かれて保育をしています。本園はマンションの１階に開設し、分園は独立した平屋建ての建物となっています。大倉山に開設するスーパーマーケットの条件（地域住民の要求）の中に、医療、福祉の施設を併設するという旨に沿い、わおわお大倉山保育園の開設が実現しました。

●わおわお大倉山保育園の保育の方針

わおわお大倉山保育園の保育の理念「ほめて・みとめて・はげまして」のスリーワードは、創設以来継承しているものです。掲げる理念は子育てのノウハウであり、子どもは認められ、褒められたら嬉しく、素直に伸びていきます。この理念に沿い、保育方針として、生命の尊さと感謝の心を持たせるよう、野菜の栽培や調理、飼育にかかわる機会を多く持ち、また、豊かな人間性を持った子どもに育てるため、保育士は子どものやりたい気持ちを大切にし、「知育」「絵画」「体育」「英語」に力を入れて保育を展開しています。わおわお大倉山保育園は、働く保護者のフォローをすることを根幹に、保護者の子育てを支援しています。

≪優れている点≫

1．生命の尊さと不思議さを知る保育の推進

わおわお大倉山保育園では、園の前の畑を借用し、野菜の栽培や調理にかかわることで生命の尊さと「不思議さ」を知らせたいと、創造と探究に取り組んでいます。畑で収穫した野菜は給食に出し、食に興味が持てるようにしています。調理体験では野菜の皮むきや、年齢に合わせて、子どもが配膳や食後の食器の片付けを行っています。職員も昼食やおやつを一緒に摂り、美味しさや嬉しさを共感しています。夏野菜の栽培では、どの野菜を育てるかを子どもに相談したり、畑の雑草取り、種まき、当番を決めた水やり、収穫を保育士と一緒に行っています。1歳児から調理体験を行ない、1歳児もすり鉢・ビニール袋でふりかけ作りを体験し、２歳児はとうもろこしの皮むき、３歳児はネギの皮むき等を行ない、食材に触れる機会を持っています。わおわお大倉山保育園ではアレルギーの子も一緒に食べられるWAOライス（はやしライスに似たメニュー）等を開発・工夫し、食育に努めています。

２．子どものやりたい気持ちを大切にした保育の実施

わおわお大倉山保育園では子どものやりたい気持ちを大切にし、「知育」「絵画」「体育」「英語」に力を入れています。子どもたちが何か一つでも自信を持ち卒園できるよう、様々な環境設定を行っています。「英語」は専任の外国人の先生により、歌やゲームを通して楽しいレッスンを展開しています。「絵画」は１～５歳児のカリキュラムを作り、発達に合わせて「絵画」に取り組んでいます。様々な素材に触れ、観察力を身につけ、想像力と表現力を育んでいます。「体育」は有資格者による体育の指導で、鉄棒、マット、跳び箱等、子どもたちの発達に合わせて、指導しています。「知育」では、「言語・流暢」「数」「空間」「記憶」「推理」「知覚」「運筆」の７つのカリキュラムから構成されおり、３歳児から就学に向けて、子どもたちが楽しみながら取り組めるよう指導しています。その他、ダンス教室、リズム遊びなど取り入れています。子ども自身がやりたい気持ちになり、自ら選び、経験して、身になるような保育を組み立てています。子どもの持つ力を引き出す保育の集大成を実践しています。

3.　働く保護者の子育ての支援

わおわお大倉山保育園は、働く保護者のフォローをすることをベースに保護者の子育てを支援しています。近隣は従来の住宅地に加えて新設のマンション等も多く建設され、共働きの若い世代も多く、保育園による子育て支援のニーズがあります。わおわお大倉山保育園は平成 14 年に横浜保育室として開園しましたが、このニーズに応えて平成 16 年４月に認可保育園に改組し、定員を７２名に増やし、地域の子育て支援を目指しています。地域の子育て支援では、公私立保育園と区の社会福祉協議会で運営する「わくわく子育て広場」の役員として参画し、イベントにも保育士を派遣し、子育て相談などを担当して積極的に協力しています。このイベントや個別の見学希望者の見学については、見学日を決めて対応し、都合のつかない保護者に対しては別の日を設ける等、柔軟な対応で見学者を迎え入れています。

≪更なる改善が望まれる点≫

1.　関係保育園の更なる連携

法人としてこの園の他に、４つの保育園（26 年４月にはもう１か所開園）と、２つの保育室を運営しています。親園の円滑な立ち上げや、開設後浅い園の運営には多くの作業が必要です。特に書式作成を伴う体制の整備には、先輩園の協力が業務の効率的な運用に繋がります。例えば、人材のボトムアップ、適材適所の人材の平均的配置、統一書式の工夫、更には保育園ＬＡＮ(構内通信網：フロア内の狭い範囲にあるコンピューターで構成されたネットワーク)、ＥＤＰ（電子データ処理システム）化の構築など様々に考えられます。何かを行なう場合の効率化を求めて、本部共々に協力できる有効な活動を期待致します。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重	●理念や基本方針は「職員マニュアル」に掲載し、全職員に配布し、入職時および職員会議で度々説明し、常に意識しながら保育にあたっています。「職員マニュアル」の改定は園長・主任会議に諮って決めています。 ●「ほめて・みとめて・はげまして」のスリーワードは創設以来のものであり、子育てのノウハウです。認められ、褒められたらうれしく大きく伸びます。 ●子どもの人権についても「職員マニュアル」に掲載されており、言葉遣いについての記載があり、皆で読み合わせを行っています。保育基準・保育士倫理綱領を徹底し、研鑽に努めています。 ●子どもの気持ちを受け止め、必要に応じて他児や集団から離れたところで、保育士と子どもがゆっくり１対１で話すことにも配慮しています。保育士と子どもが１対１で話せる場合として、本園は「お話しの部屋」、分園は事務所の中などを利用しています。 ●守秘義務の意義や目的を全職員に周知し、「秘密保持に関する誓約書」をもらい守秘を徹底しています。個人情報に関する記録・書類は、事務所外に持ち出しは禁止し、鍵のある書庫に管理しています。 ●職員の性差への先入感、差別は排除し、名簿は生年月日順、並び順も性別にせず、好きな配役、色などの選択も子どもの自由にまかせています。気になる事があった場合には毎月のカリキュラム会議で話し合うようにしています。
2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供	●保育理念、保育目標を基盤として保育課程、カリキュラム（年間指導計画、月案、週案、日案）を作成しています。保護者にも保育課程を配布し、保育理念、保育目標は入園案内にも掲載し説明しています。 ●入園説明会及び面接には親子で参加してもらい、子どもが遊ぶ様子や親子の関わり方なども観察し、個別面談では、事前に入園までの生活状況を書いてもらい、家庭での様子や育成歴等を確認しています。 ●生活状況等は全職員で情報を確認しています。児童記録はいつでも見られるように、事務所内にファイルし職員は必要に応じて閲覧することが出来、日々の保育に活用しています。 ●保育課程に沿って策定したカリキュラムに沿い毎月、クラス会議、全体のカリキュラム会議を行い、各クラスの保育計画と内容、前月の振り返りを行い、子どもの意見や意思を汲み取れるようにしています。 ●わおわお大倉山保育園では、園の前に畑を借用し、野菜の栽培や調理にかかわることで生命の尊さと不思議さを知らせたいと考えています。畑で収穫した野菜は給食に出し食に興味が持てるようにしています。 ●わおわお大倉山保育園では子どものやりたい気持ちを大切にし「知育」「絵画」「体育」「英語」に力を入れています。子どもたちが何か一つでも自信をもって、卒園できるよう、様々な環境設定をしています。 ●「英語」は専任の外国人の先生により歌やゲームを通して楽しいレッスンをして

	います。 ●「絵画」は１～５歳児のカリキュラムを作り、発達に合わせて「絵画」に取り組んでいます。様々な素材に触れ、観察力を身につけ、想像力と表現力を育てています。 ●「体育」は有資格者による体育の指導で鉄棒、マット、跳び箱等子どもたちの発達に合わせて、指導しています。 ●「知育」は、「言語・流暢」「数」「空間」「記憶」「推理」「知覚」「運筆」の 7 つのカリキュラムから構成されていて、3 歳児から就学に向けて、子どもたちが楽しみながら取り組めるよう指導しています。
3.サービスマネジメントシステムの確立	●新入園児にはならし保育を実施しています。特に低年齢児については、ならし保育期間中は「行ってきます」を言って別れ、家に帰ったらしっかり抱きしめてあげることをお願いしています。 ●虐待対応の職員マニュアルがあり、虐待の定義については、職員会議で読み合わせを行い、発見後の対応の流れも全員が把握しています。虐待を確認したケースでは、関係機関と連携を取り、相談・支援をしました。 ●外国との文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違いを認め、尊重するよう子どもに話しています。本社に中国人の職員も居り、保育士に英語が堪能な職員もいて保護者や子どもとも言葉、習慣で問題（見解の相違）になることはありません。 ●苦情解決の受付担当、第三者委員への連絡先等は玄関に掲示しています。また、意見箱を設置し、苦情申し立ての方法なども玄関に掲示しています。苦情処理に関するマニュアルがあり、順守をしています。 ●感染症等への対応に関するマニュアルがあり、職員に周知しています。感染症が発生した時は速やかに掲示し、保護者に情報提供をしています。登園停止基準、注意事項などについては入園案内に記載してあります。 ●衛生管理に関するマニュアルがあり職員に周知しています。清掃についてはチェック表で管理しています。汚物処理はマニュアルに沿い実施していて、その研修は４月に実施しています。 ●災害発生時には、保護者に向けて緊急一斉メールが発信ができる体制があり、毎年テストメールの送信もしています。緊急連絡網、ＮＴＴ171の活用も準備しています。第１次集合場所は隣のスーパーであり、避難場所として、近くて便利です。
4.地域との交流・連携	●わおわお大倉山保育園は働く保護者のフォローをすることをベースに保護者の子育てを支援しています。ニーズに応えて平成 16 年 4 月認可保育園に改組し、定員を７２名に増やし、地域の子育て支援を目指しています。 ●地域の子育て支援では公私立保育園と区の社会福祉協議会で運営する「わくわく子育て広場」の役員（昨年は副会長、今年は庶務）として参画し、イベントにも保

	育士を派遣し、子育て相談などを担当し協力しています。 ●法人内すべての園横断での経験別年数会議では地域支援について話し合っています。特に一時保育は積極的に行っており、利用者も多く期待も大きいです。「わくわく子育て広場」では保護者への遊びの指導も行っています。 ●相談内容に応じて相談する関係機関・地域の団体についてはリスト化し、園長又は主任が担当で連絡をとっています。相談内容は事例別、種別にまとめてあり、職員が状況に応じて何時でも利用できるようになっています。 ●ボランティア受け入れマニュアルに沿い事前にオリエンテーションで基本方針・守秘義務・人権・安全・衛生面を細かく説明してから保育現場に入るようになっています。小・中学生の職業体験はも受け入れています。
5.運営上の透明性の確保と継続性	●地域のイベントで、園のパネルを掲示し、パンフレットも置いています。地域子育て支援拠点に情報を提供しています。一時保育の案内や入園希望の園見学や電話による問い合わせも積極的に受け入れています。 ●職員マニュアルの中に掲載されている「職員倫理綱領」の読み合わせを必要に応じて行っています。職員マニュアルは全員に配布しています。園の就業規則を順守しています。 ●マンションの１階部分等既存の建物の利用の為、建物で３R夢（横浜市のリユース、リデュース、リサイクルの３R方針）への貢献は出来ませんが、意識を持ってゴミの減量化と分別に取り組んでいます。リサイクルや省エネに心がけています。 ●わおわお大倉山保育園には職務基準書、職務分担表があり、明文化されています。「職務基準」は現在、全員参加で、経験別年数に会議を開き、平成26年3月の改定に向けて検討中です。 ●年度初めに自己評価表を作成し、期ごとに振り返りを行っています。年度途中に園長・主任と達成状況等について面談を行っています。職員からの保育や業務改善提案書や来年度以降の改善案等を受け入れています。 ●園長は横浜市や港北区役所及び本部などを通じて、保育業界や保育施策等の諸情報の収集に努め、現状との対比などの分析をおこなっています。重要な情報は必要に応じて会議やミーティング等で報告しています。
6.職員の資質向上の促進	●実習生受け入れマニュアルに沿って園の基本理念・方針・守秘義務・人権・安全・衛生面についての説明を行い、実習のねらいや実習経験をもとに本人の希望を聞き、実習目的が達成できるよう実習計画を確認しています。 ●必要な人材の育成については、職員個々に年間目標を掲げさせ、自己評価を実施し、期ごとに振り返りをしています。年2回の面談では期ごとに振り返りを行い、次のステップに進んで行けるように話合い、指導しています。 ●正規職員、パートに関わらず、年間の研修計画に沿って必要な研修には参加してもらい、職員会議で研修発表をしてもらっています。また、外部の研修案内は掲示

	して、希望者が積極的に参加できるようにしています。 ●人事考課については個人目標の自己評価、経験年齢別自己チェック表、年４回の評価により常に振り返り反省する考課体制が定着しています。系列園で随時、保育見学・保育参加が出来る体制になっています。 ●本社、系列園と合同で園長・4主任会議を定期的に開催し、研修や情報交換をし、責任者としての育成を図っています。外部環境の変化などについては職員に周知し、必要に応じ職員会議で取り上げ検討しています。 ●来年は１０周年であり、法人内8園の合同運動会を企画し検討しています。 ●業務改善提案書を職員から募集し、業務改善に関する取り組みに結びつけています。